

6月も中盤に入り、梅雨空が続いてあじさいが咲き始めました。季節、時間が進んでいくことを感じます。こうした時間経過の中、私たち大人でも、子供時代の日々の生活の中には思い出せないほどの「苦手」があったと子供たちをみながらうっすら思い出し、時に気が付かされ、時に反省（親視点、教師視点で）もします。学校生活の中での気になる（目につきやすい）代表的な子供たちの課題と言えば、個々の程度の差もありますが整理整頓や注意集中の継続。授業への模範的参加でしょうか。面談の中でも「鉛筆や消しゴムはこんなに消耗品だったでしょうか？」「プリントの受け渡しにどう本人が気が付くのでしょうか。‥」「ノートや教科書は使っているのでしょうか‥」等々、様々な声が聞こえてきます。そのつど、大人もどんな応援ができるか、支援ができるか考えます（ここが今現在ですね。）。名前のついた鉛筆や消しゴムをとにかく供給し続ける（ご家庭からの支援、ありがとうございます！）。「かすかな期待を込めて筆箱にミニメッセージを付ける。」「忘れ物は支援教室から貸し出す。」等々、いろいろ悩みつつ、考えつつ日々の生活は続きます。ただ、今、何が正解かはなかなか見えてはこないけど、とりあえず子供たちに寄り添って応援、支援を続ける。このことが大事なのかなあと思います。

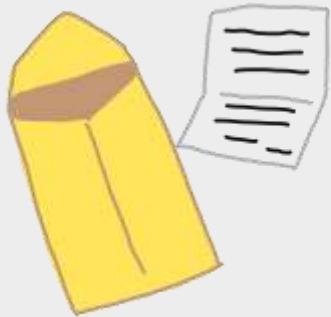
今できる「応援・支援」を考えながら

「今すぐ答えはでないけど、



令和7年6月17日(火)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室かがやき
教室通信 No,5

「苦手」とされるものにどう付き合っていくか。ある、高学年子の後ろ姿を思い出します。中学年まで身辺整理に対しての意識がなかなか向かず、日々の学校生活の中でも「どうしたものかなあ」とワークシートで振り返りの意識付けをしたり、個別に声をかけたり、自席の近くに専用の整頓ボックスを置いてみたり‥。そして、高学年となったその子は今一人でそこそこ教室の枠の中で立派に高学年として生活をしています。「あの時はどうしていたんだろうね。」時おりお互に振り返りますが、「う~ん、わからない」とのこと。すぐに答えはでない子供期、答えはなかなかでないけど、その子に寄り添いつつ、「今」できる応援、支援を考えながら気長にしていく。自分たちもいつか来た道と思いながら、大人が一緒に協力してやっていければと思います。とは言っても悩みは尽きないこともあります。何かあればお気軽にかがやき教室までご相談ください。



うれしいお手紙

先日、かがやき児童から1通のお手紙がありました。その手紙には『〇〇ができるようになったのは、～先生のおかげです。』と、うれしい言葉が書いてありました。

いろいろな事を考えて、文章も何度も消しながら書いたのかなあ等と思い、とても感動しました。



かがやき専門員の小窓

先日、グループ指導の中で、『自分のよい所はどこか』という話題が出ました。それぞれ自分のよい所を考え、『多分…だと思う』等、自信なく言う児童もいれば、『ない!』とはっきり断言する児童もいました。教師が、「では、友達に聞いてみようか」と問いかけ、同じグループの児童に聞いてみると、『結構優しいよね』『自分の意見を言えるよね』『切り替えが早くなったよね』等のよい言葉が聞こえてきました。自分の気が付かないよさは、周りの方々が結構知っているものなのだという事がわかりました。